



JSBMR Newsletter No. 6

日本骨代謝学会 / The Japanese Society for Bone and Mineral Research

〒532-0011 大阪市淀川区西中島 5-5-15 新大阪セントラルタワー8階 (株)コネット内

TEL: 06-4806-5656 FAX: 06-4806-5658

第24回日本骨代謝学会学術集会 開催案内

会 期: 2006年7月6日(木)~7月8日(土)
 会 場: TFTビル(TFTホール)
 会 長: 新潟大学大学院 医歯学総合研究科
 細胞機能制御学分野 教授 川島 博行
 参加費: 12,000円 (学生5,000円 … 学生証の提示が必要です)
 テーマ: 「運動器および口腔組織の機能制御と疾患の現状と未来」
 演題募集期間: 2006年3月初旬~4月10日(月)
 ホームページ: <http://www.procom-i.co.jp/jsbmr2006/>

企 画:

特別講演

「骨芽細胞ニッチと幹細胞」

慶應義塾大学医学部 須田年生教授

海外招待講演 1

「Mechanism of Mechannotransduction」(仮題)

Ning Wang, PhD

(Professor, University of Illinois at Urbana-Champaign)

海外招待講演 2

「Pituitary Hormones and Bone」(仮題)

Mone Zaidi, MD, PhD

(Professor, Mount Sinai School of Medicine)

シンポジウム 1

「メカニカルストレスと骨代謝」

工藤 明 先生(東京工業大学大学院生命工学研究科高次生命情報分野)

シンポジウム

「硬組織再生研究の最前線」

大園恵一 先生(大阪大学大学院医学系研究科小児発達医学講座)

シンポジウム

「免疫と骨疾患」

高柳 広 先生 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子情報伝達学)

田中良哉 先生 (産業医科大学医学部第1内科)

イブニングセミナー 1

「PTHの骨作用(基礎と臨床)」

イブニングセミナー 2

「変形性関節症: 病態と治療の現状と未来」

ミニシンポジウム

昨年と同様、第3会場を設けて、学会期間中にミニシンポジウムを行う予定となっています。

1. 「骨芽細胞の分化と制御」
2. 「破骨細胞の分化と機能制御」
3. 「リン酸代謝異常と骨疾患」
4. 「ステロイド骨症」
5. 「転写因子と骨疾患」
6. 「硬組織疾患とモデル動物」
7. 「ゲノムと骨代謝疾患」
8. 「軟骨再生の現状」
9. 「リウマチと骨関節破壊」
10. 「骨粗鬆症治療薬の新ガイドライン」

~ . . . ~ . . . ~ . . . ~ IOF-ANZBMS トラベルアワード ~ . . . ~ . . . ~ . . . ~ . . . ~

全一般演題のうち、希望表明をされた方の中から、選考委員会により選出された演題の筆頭発表者に対して、下記国際会議への参加のための助成を行います。(10万円程度約20名)皆様方奮ってご応募ください。

「Joint IOF/ANZBMS (Port Douglas, Queensland, 23-26 October 2006)」(p.15をご参照ください。)

2004～2005年度 日本骨代謝学会 会務報告

(2005年7月～2006年1月末)

1) 理事会

2005年度 第3回理事会議事録

日時: 2005年7月20日(水) 12:30～15:00

会場: 大阪国際会議場 11階 1101-2号会議室

出席者:

清野佳紀(理事長)、川島博行(副理事長)、滝川正春、
西沢良記、野田政樹、吉川秀樹、米田俊之、太田博明、
大園恵一(理事)、
山口 朗(監事)

同席者:

鈴木不二男(編集委員長)、高岡邦夫(あり方委員長)、
松本俊夫(国際渉外委員長)、白木正孝(臨床プログラム推進
委員長)、田中弘之(書記)、

欠席者:

福永仁夫、遠藤直人、豊島良太(理事)、乗松尋道(監事)、
中村利孝(QOL委員長)、名和田新(ステロイド委員長)、

議事:

2005年度第1回理事会議事録の承認(清野理事長)
2005年5月20日に行われた2005年度第1回理事会の議事
録案が提出され、承認された。

< 報告事項 >

1. 庶務報告(滝川理事)

滝川理事より、2005年6月末時点の、役員数、会員数、お
よび会費納入率が報告された。昨年度より、正会員、学生会
員とも会員数が増加した旨報告があった。

2. 会計報告(吉川理事)

吉川理事より、2005年6月末時点の、収入・支出について
報告があった。また、今年は、(財)日本学会事務センター破
産による損失が計上されるため、今年度末には、一般会計が
約500万円の赤字となる見込みであることが明らかになった。

3. 各種委員会報告

あり方委員会(高岡委員長)

前々から懸案事項となっていた、奨励賞の選考区分につ
いて、先に行われたあり方委員会にて審議された内容が報
告された。現在の5つの区分を、新たに基礎研究(基礎機能

系、基礎形態系)、臨床研究(内科系、外科・歯科系など)の
2つの大きな区分に改変し、選考委員会の裁量権において
各系の受賞者数を決定する方法が提案され、今後も検討を
継続することになった。

なお、現在の会則(賞に関する諸規定)を変更する場合に
は、評議員会、総会の承認が必要となっていることから、次年
度より、適切な区分分けを適宜、導入できるようにするため、
諸規定については、理事会承認にて改定できるよう、第5章
(付則)を変更することが承認された。

学会誌編集委員会(鈴木編集委員長)

鈴木編集委員長より、JBMMの発行状況について、Vol.23-4
を7月15日に刊行し、続けて、Vol.24-1まで発行は予定通り
進んでいる旨報告があった。また、7月15日現在で、89編の投
稿を受付けており、その中で国外からの投稿が初めて国内より
上回った旨、報告された。

2004年度の impact factor は1.496であった旨発表された。
(財)日本学会事務センターの破産によりオンライン査読シス
テムの導入が滞っていたが、今後具体的に進める予定である
旨報告があった。

第23回学術集会の国際シンポジウムの Proceedings を Mini
Reviewとして掲載予定である旨報告された。

清野理事長より、毎年開催される学術集会の海外招待講演
者に Review を書いてもらうよう依頼することについて提案があ
った。

最後に、鈴木委員長より、今年はちょうど役員交替の年にあ
たるため、この機会に、編集委員長の任を交替することにつ
いて、提案があった。これに対し、数名より強い慰留の意見が出
されたが、新理事会にて引き続き協議することとなった。

学術賞・奨励賞選考委員会(西沢委員長)

西沢委員長より、今年度の学術賞・奨励賞受賞者について
報告があった。また、優秀演題賞6名が発表された。

国際渉外委員会(松本委員長)

松本委員長より、2006年10月にオーストラリアで行われる
IOF-ANZBMS Joint Meeting に演題を出す人に Travel Grant
を出すことについて提案があり、承認された。具体的な支給方
法については、今後の審議事項となった。

また、2007年の JSBMR にはアジア・オセアニアから発表者を

清野佳紀(理事長)、滝川正春、野田政樹、福永仁夫、
吉川秀樹、太田博明、大園恵一(理事)、松本俊夫、加藤茂明
杉本利嗣(新理事)

欠席者:

遠藤直人、山口 朗、豊島良太(理事)、乗松尋道(監事)

議 事:

1. 新理事長の選出について

審議の結果、次期理事長として、松本理事が選出された。

2. 新委員会委員長の選出について

国際渉外委員会

松本理事の理事長選出に伴い、国際渉外委員会の次期
委員長について審議された結果、米田前理事が選出され
た。

編集委員会

鈴木委員長より、役員交替の時期に伴い、編集委員長も
交替した方がよいのではないかとの提案があった旨、清野
理事長より報告があった。慰留をお願いしたいとの意見もあ
ったが、10 年間に渡ってご助力いただいた事を考慮して、
交替することが決定した。

新編集委員長には、清野理事長が選出され、来年 3 月ま
でを引継期間にあてることが確認された。

3. (財)日本学会事務センター破綻に伴う財政の立て直しにつ いて

清野理事長より、(財)日本学会事務センター破綻による約
2,100 万の損害が発生し、今年度の決算では、一般会計の次
年度繰越金が、500 万円ほどの赤字となる予定である旨、説明
があった。

これに対し、財政の再建のため、会費を値上げすることも提
案されたが、協議の結果、まずは学会誌のカラーページ代金
の一部を著者に負担してもらうなど、支出を抑える努力をした
上で様子を見ることとなった。なお、会員名簿を作る予定であ
ったが当面は着手せず、今年度の決算の状況をみて再度検
討することが確認された。

次回理事会の日程は、11月23日(水)に開催することとなっ
た。

2005 年度 第 3 回理事会議事録

日 時: 2005 年 11 月 23 日(水) 15:00~17:00

会 場: 大阪厚生年金病院 2 階 第 2 会議室

出席者:

松本俊夫(理事長)、山口 朗(副理事長)、加藤茂明、
杉本利嗣、滝川正春、野田政樹、吉川秀樹、太田博明、
大園恵一(理事)、清野佳紀(監事)

同席者:

鈴木不二男(編集委員長)、高岡邦夫(あり方委員長)、
中村利孝(QOL 委員長)、米田俊之(国際渉外委員長)、

欠席者:

福永仁夫、遠藤直人、豊島良太(理事)、乗松尋道(監事)、
名和田新(ステロイド委員長)、

議 事:

2005 年度第 1 回理事会議事録の承認(松本理事長)

2005 年 7 月 20 日に行われた 2005 年度第 2 回理事会の議事
録案が提出され、承認された。

< 報告事項 >

1. 庶務報告(滝川理事)

滝川理事より、2005 年 10 月末時点の、役員数、会員数、お
よび会費納入率が報告された。

2. 会計報告(吉川理事)

吉川理事より、2005 年 10 月末時点の、収入・支出について
報告があった。収入の部はほぼ予算通りの進捗となっており、
ステロイドガイドラインの販売料(図版転載使用料含む)として、
約 1700 万円の臨時収入のあったことが報告された。また、支
出の部では、学会事務センター破産損金として、およそ 2,150
万円の損害のあったことが報告された。今後、大きな支出とし
ては、JBMM 制作費および、学術集会開催補助金など、併せ
て 2,000 万円程予定されているが、ステロイドガイドラインの収
入などにより最終的には 500 万円以内の損失に収まり、次年
度繰越金も出せる予定である事が報告された。

3. 各種委員会報告

あり方委員会(高岡委員長)

開催されず報告事項なし。

学会誌編集委員会(鈴木編集委員長)

鈴木編集委員長より、JBMM の投稿および掲載状況について、

報告があった。本年度投稿受付した論文は、138 編で例年と同様であり、採択率は 45%程度となる見込みである旨報告された。分野別では、内科系 42%、基礎系 35%、外科系 22%、疫学系 1%となり、国別では、国外より 85 編、国内より 53 編の投稿があり、今年初めて国外からの投稿が国内を上回った事が報告された。その他次号の内容について紹介があった。

また、来年4月より、以下のように Associate Editor の再編成を予定している旨、報告があり、承認された。

(以下、敬称略)

Editor-in-Chief : 清野佳紀

Associate Editor:

内科系 : 細井孝之(留任)、西沢良記、松本俊夫、大園恵一

外科系 : 遠藤直人、中村利孝(留任)、吉川秀樹

基礎系 : 野田政樹(留任)、山口 朗、米田俊之

骨形態計測学会代表委員: 福永仁夫

なお、現在 Editorial Board メンバーである川島博行先生より、留任を辞退する希望のあった旨、報告された。また、新しいメンバーとして中村耕三先生、手塚建一先生に加わっていただくよう依頼したが、辞退されたため、レフェリーとしてご活躍いただく旨、報告があった。

平成 18 年度の科学研究費補助金を申請した旨、報告があった。

清野新編集委員長より、今後査読システムに、電子ジャーナルを導入する計画である旨、報告があった。また、理事の先生方にミニ・レビューを書いていただくことや、学術集会の特別講演者には、招待の段階で、JBMM 誌へ投稿を呼びかけるなど、今後の編集体制について提案があった。

学術賞・奨励賞選考委員会(川島委員長)

川島委員長より、今年度の学術賞・奨励賞受賞者について例年通りの日程で募集を予定している旨、報告があった。

骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会(中村委員長)

QOL 評価質問表の Confirmation Study を各施設で採取している状況について、報告があった。集めたデータの統計的な解析を行うため、現在アドバイザーとして埼玉医科大学の熊本先生に関わっていただいている旨説明があり、委員会出席旅費や、統計解析の作業として、予算の拠出について申し入れがあった。

見積書等の資料が提出され、確認された。

国際渉外委員会(米田委員長)

特になし。

4. 第 24 回骨代謝学会準備状況について(川島第 24 回会長)

先のプログラム委員会にて、素案が決まった旨、報告があった。シンポジウムはすべてミニシンポジウムで、メカニカルストレスと骨代謝、免疫と骨代謝、内分泌系と骨代謝等のテーマを採用する旨、紹介があった。特別講演には、須田年生先生に依頼している旨、報告があった。そのほか、ランチョンセミナーやイブニングセミナーの概要について紹介された。今後、参加者数の増加を図り、魅力ある企画にすべく、詳細を詰める予定である旨報告があった。

5. 第 25 回骨代謝学会準備状況について(高岡第 25 回会長)

第 25 回学術集会は、2007 年 7 月 19 日(木)~21 日(土)に、大阪国際会議場において開催予定である旨報告があった。また、プログラム委員長は会長が兼任するが、プログラム委員を、理事会出席者で構成したいとの申し入れがあり、追加で若手の先生方も加わるが、基本的には理事会メンバーで運営していくことにて、承認された。

6. 第 26 回骨代謝学会準備状況について(松本第 26 回会長)

松本理事長より、第 26 回学術集會において、骨粗鬆症学会より共同開催の申し出のあったことが報告された。骨粗鬆症学会が、10 月頃の会期であることから、本会の会期を骨粗鬆症学会の前に設定し、最終日と、骨粗鬆症学会の初日をジョイントすることについて提案があった。

これに対して、10 月から 11 月にかけては、整形外科、内科系の学会が多いことから、会議が重複し、会員の参加者の減少が危惧されるため、例年通りの 7 月に行う方法で、骨粗鬆症学会に会期を早めてもらってはどうかとの提案もあった。

また、どのような形の共催とするか方向性に関して審議され、全日程を合同で開催した場合に、会場や日程を合わせるだけでなく、プログラムの内容編成や、両学会の役員を重複している先生が少なくない中での、各種会議日程の設定など、解決しなければならない問題も多いため、シンポジウムの一つか、あるいは会期のうち一日のみを共同開催にしてはどうかという意見もあった。協議の結果、基本的には、共同開催を進めていくが、具体的な形態については、松本会長を中心に案を作り、継続審議事項とすることが確認された。

7. 学会誌掲載論文の転載許可について

事務局より、学会誌掲載論文(ステロイド骨粗鬆症ガイドライン、および原発性骨粗鬆症の診断基準)の転載について、前回理事会より5件の依頼が届いた旨、内容など報告があった。

8. IOF-ANZBMS トラベル基金の設立について

前回理事会にて承認された IOF-ANZBMS トラベル基金の設立について、松本理事長より、その後の進捗について報告があった。基金を募る協賛企業での手続きの円滑化を図るため、特別会計の口座を開設し、趣意書、予算書などの資料を準備した旨、説明があった。

また、アワード授与者の選考については、第 25 回学術集会の演題応募の段階で、申込の項目を作り、提出された演題の採点結果を基に順位をつけ、基金総額に応じて受賞者を判定する予定であることについて確認された。

9. 国際骨代謝学会の開催予定について

野田理事より、国際骨代謝学会の開催場所について報告があり、2007 年のモンテリオールの次は、2009 年にオーストラリアに決定された旨、報告があった。

< 審議事項 >

1. 新評議員の推薦について(松本理事長)

松本理事長より 5 名の新評議員の推薦があったとの説明があり、満場一致にて承認された。

今村健志 先生 ((財)癌研究会癌研究所生化学部 部長)

小守寿文 先生 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 発生分化機能再建学講座 顎口腔細胞生物学分野 教授)

田中 栄 先生 (東京大学医学部整形外科 講師)

小松弥郷 先生 (京都大学大学院 内分泌・代謝内科 助手)

岡崎 亮 先生 (帝京大学医学部附属市原病院 第三内科 助教授)

2. 骨粗鬆症診断基準の改訂について

中村委員長より、骨粗鬆症学会から、骨粗鬆症診断基準のガイドライン改訂の依頼があったことが報告された。これは、骨粗鬆症学会にて作成中のガイドラインにおいて、薬物治療のガイドラインを、骨粗鬆症診断基準のガイドラインと一致させないといけない前提から改訂の必要性が起り、本会にもその依頼があった旨、経緯の説明があった。

しかし、その後、WHO、アメリカ、イギリス等より、骨粗鬆症の診断基準は、現在のところ改訂しないという見解が大幅な国際的意見であることが認められ、骨粗鬆症学会にてガイドライン改訂の必要性がなくなったため、本会宛て改訂の依頼も取り下げとなった旨報告された。

松本理事長より、現在、治療基準が、診断基準よりも弱いこ

とについて現状のままでよいのかどうか質問があった。これに対し、中村委員長より、基準が 2 つ存在することについて、疫学分野がシングルスタンダードを容認していない事や、老年者の年齢定義が、国ごとに異なるなどの問題もあり、国際的な見解も、骨粗鬆症治療に対して、シングルスタンダードよりもダブルスタンダードで進む方向性が大きい旨回答があった。

清野監事より、こうしたガイドライン作成などの核心的な問題を、骨粗鬆症学会と共同作業で進めていくことについて提案があった。

松本理事長より、診断基準の妥当性を検討することは、本会独自の事業としても取り組む価値のあることから、委員会を設置することについて提案があった。審議の結果承認され、今後、中村委員長と、福永理事、西沢理事、太田理事を中心に進めていくことが確認された。

3. 奨励賞の選考区分について

前回より懸案事項となっていた、奨励賞の申請区分の決定について、審議の結果、応募する研究を行った施設が所属施設と異なる場合には、研究を行った施設も合わせて提出してもらい、最終的な所属先による分野の割り振りについては、大会事務局にて決定することが確認された。

また、選考区分については、前回理事会にて、あり方委員会より提案のあった通り、基礎研究(基礎機能系、基礎形態系)と臨床研究(内科系、外科・歯科系)の二つに大きく分けることとし、選考委員会の裁量権において各系の受賞者数を決定する方法にて、承認された。

選考区分の改変について、会員へのアナウンスは次回演題募集案内より施行することが確認された。

4. 会員増加策について

加藤理事より、アメリカ内分泌学会の会員増加の対策に携わっている旨紹介があり、本会へも導入することが可能な部分は、大いに取り入れていくことが確認された。

2) 評議員会

2005 年 7 月 22 日(金)、大阪国際会議場において評議員会が開催され、前々日の理事会において報告・審議された事項が承認された。

3) 総会

2005 年 7 月 22 日(金)、大阪国際会議場において総会が開催され、前々日の理事会および、当日の評議員会において報告・審議された事項が承認された。

4) 各委員会報告

< 学会誌編集委員会 >

第 14 回 JBMM 編集委員会

日 時: 2005 年 7 月 20 日 (水) 11:30 ~ 12:30

場 所: 大阪国際会議場 1203 室

出席者:

編集委員長: 鈴木不二男;

Associate editors: 清野佳紀(理事長)、川島博行、野田政樹

学会誌担当理事: 大園恵一

欠席者:

Associate editors: 久米川正好、中村利孝、福永仁夫、細井孝之

学会誌編集委員: 江尻 貞一、田中 栄、田中弘之、羽毛田慈之

陪席者: 編集事務局: 五郎大由似子

鈴木委員長より資料に基づき説明があり、以下の事項を承認した。

I. 第 13 回編集委員会議事録の確認

II. 報告事項

1. 学術振興会の研究成果公開促進費

本年度も採択され、580 万円を受給した(年間ページ数を 642 ページに増やして申請した)。

2. 発行準備状況(資料参照)

a) 予定通り 23(3)を 5 月に、23(4)を 7 月に発行した。続けて 23(5)から 24(1)まで、予定通りに発行する予定である。2005 年 7 月 15 日現在で 89 編の投稿を受け付けており、年間 160 編程度(昨年は 149 編)に増える見込みである。なお現在、査読中の論文は 59 編である。24(1)(06 年 1 月発行予定)には、すでに 9 編の論文が採択されている。

05 年度の方別投稿数: 外科系: 23 編 (26%); 内科系: 39 編 (44%); 基礎系: 27 編 (30%)。国別では、国内からの投稿: 31 編 (35%)、国外からの投稿: 58 編 (65%)であり、国外からの投稿数が初めて上回った。

国別の内訳: 日本: 31 編; ヨーロッパ: 22 編; アジア: 21 編; 北米、南米: 8 編; 中東: 4 編; オセアニア: 3 編 Reject 論文数も増やしつつある(01 年 4 編、02 年 24 編、03 年 40 編、04 年 62 編、05 年 上半期で 33 編)。

一方、採択論文(原著論文、短報、症例報告、ただしレビュー論文および特別報告は除く)は 73 編であり、国別の内訳は、日本: 41 編; 中国: 8 編; トルコ: 4 編; 韓国; オーストラリア; フランス: 2 編ずつ、アイルランド; ノルウェー; スウェーデン; エスト

ニア; ドイツ; オーストリア; ハンガリー; スペイン; イタリア; ギリシア; カナダ; 米国; ブラジル; アルゼンチンは各国一編ずつである(日本: 56%; ヨーロッパ: 16%; アジア: 14%; 北米、南米: 5%; 中東: 5%; オセアニア: 1%)。したがって、当初の目標であったアジア地区からの情報発信を目指すという線は守られている。

以上の他に、レビュー論文が 4 編、特別報告が 2 編あるので、23 (1-6)は総計 79 編の論文を掲載した。

b) Review の掲載状況

各賞受賞者に対して、二重投稿に注意して投稿するように依頼状に記載しているので、原稿の到着が遅れがちである。今年度も、理事長と編集委員長の連名で各賞受賞者に執筆依頼状を出す予定である。今学会で西沢会長より特別講演および国際シンポジウム講演者にミニレビューの執筆を依頼して頂く予定である。

c) Special Reports: 23 (2)に下記の二編を掲載した。

Guidelines on the use of biochemical markers of bone turnover in osteoporosis (2004)

Guidelines on the management and treatment of glucocorticoid-induced osteoporosis (2004)

後者については、和訳版を学会から出版済みであり、これにより相当額(967 万円)の収入を得ている。

d) 多くの Review articles を投稿して頂き、また International Advisory Board member として JBMM の発展に大きく貢献された Dr. Harold M. Frost が亡くなられたので、高橋栄明先生に追悼文を書いて頂いた[23 (3)]。

e) 万有製薬より 22 (5) に掲載した alendronate の大規模臨床試験に関する論文の和訳版を 10,000 部配布したいという申し入れがあり、学会および出版社に対してロイヤリティ(学会および出版社に対して)を支払うことで合意を見た。etidronate に関する Case Report についても福田商店より同様な申し入れがあった。

f) 乗松尋道教授が主催された First Asian Pacific Congress of Bone Morphometry(高松)の抄録を JBMM の Supplement として出版した。

3. インパクトファクターについて

2004 年度の JBMM 誌の impact factor は 1.493 であった(2003 年度は 1.553)。JBMR, Bone など海外の有力な雑誌も今年度は若干低下傾向にある。

4. その他

Springer 社に支払う JBMM 購読料の改定を行い、覚書を取り交わした。改訂内容の概要は下記の通りである。

- 1) ページ数を削減(約 5 %)するために、23 (1)より新レイアウトを採用した。
- 2) ページ数を 2004 年度は各号 88 ページ(年間 528 ペー

ジ)、2005年以降は各号84ページ(年間504ページ)とする。

3) 年6号発行、各号3000部引き渡し、2004年:年間528頁まで、1180万円+59万円(消費税)、2005年以降は年間504頁まで、1180万円+59万円(消費税)とする。

4) 超過ページ費用の見直しについては、1頁15000円+消費税とする。

III. 協議事項

今後の編集方針について協議した。

1. JBMMは日本およびアジア地区からの情報発信を重視することに変わりはないことを再確認するとともに、今後の論文採択に際しては、これまで以上にrejectを増やして論文の質を高めることを了承した。また、エディターの段階でプレスクリーニングをすること、各エディターのReject率は40-50%とすることが、すでに委員長から提案され、了承されている。
2. 査読の迅速化を図る方法として、オンライン投稿・査読システムを採択する案が今年の編集委員会で決まっていたが、日本学会事務センターの破綻により、ペンディングになっていた。システムの候補はManuscript Central (Scholar One, Inc.)であり、すでに前回の編集委員会で米澤編集部長(Springer社)より説明済みである。ちなみに日本生化学会のJ Biochemが今年度から、このシステムを採択している。このシステムを取り入れる際には、初期費用がかかる(Springer社に対して100万円程度、また移行期間には、システム化と郵便の両体制を取る必要があるために編集事務局に対しても50万円程度余分に必要である)。このシステムをBoneの編集で常時、利用されている野田エディターおよび大園理事からManuscript Centralは、リストやキーワードなども検索することができ、また世界中からアクセスすることができるので、書類紛失の可能性も少なくなり、導入してはどうかという意見が出た。このシステムでは、すべて英語でやりとりすることになるが、海外からの投稿が半数を超えた現状では、電子査読を採択するよい機会となろう。
3. 発行後1年を経過した論文は、オンラインで無料購読できるように出版社と交渉してはどうかとの意見も出た。
4. 大園理事からは、日本骨代謝学会としてJBMM誌を発行していることは大きなアドバンテージであり、本編集委員会の直前に開催された「国際渉外委員会」において、オーストラリア、ニュージーランドの学会との関係を強化させる動きがあるので、オセアニア地区からもAssociate editorに加わってもらうことも検討してはどうかという意見が出た。
5. 今学会のシンポジウムやミニシンポジウムの講演者にレビューの執筆依頼をしてはどうかという意見が出た。

6. 他学会から掲載を依頼された会告については掲載料を徴収する必要があるが、その金額は理事会で諮って頂くこととした。

7. 本学会の活性化方策の一環として「JBMM論文賞」を設ける案が理事会で話題になっており、編集委員会では23巻より論文賞を設ける方向で検討すること、その際、受賞対象者を本学会会員に限定するか等、細部については理事会とも協議の上、実施することとした。

8. カラーページの補助の見直しおよび刷り上がり4または6ページ以上は投稿料を徴収するという案が今年の編集委員会で検討されたが、今後の予算の推移をも勘案して継続審議事項とした。

その他

1. 委員会の開催時期について

編集委員会を理事会の前に開催しようとする、役員以外の委員が出席し難いことになるので、次回からは学会の会期中の7:00-8:00に設定してはどうか?という意見が出た。ただし、この案では委員会の決定事項を直ちに実施することが困難になる(次期理事会まで待たねばならないので)。したがって、欠席者を含めて全委員の意見を聞いた上で、再度、検討することにした。

2. Editor-in-Chiefの交代について

鈴木委員長より、「これまで十年間に亘り、JBMMの資質向上のために微力を尽くしてきたが、今年はちょうど役員交代の時期に当たるので、この機会にEditor-in-Chiefを交代してはどうかと思う」との発言があった。これに対して各委員からは強く慰留されたが、本件はEditor-in-Chiefの選考方法および任期等を含めて次期理事会に一任することとした。

第15回JBMM編集委員会

日時:2005年11月23日(水)13:00~14:00

場所:大阪厚生年金病院 第1会議室

出席者:編集委員長:鈴木不二男;

Associate editors:清野佳紀(理事長)、川島博行、
中村利孝、野田政樹、細井孝之

学会誌担当理事:大園恵一

欠席者:Associate editors:久米川正好、福永仁夫

陪席者:編集事務局:五郎大由似子

鈴木委員長より資料に基づき説明があり、以下の事項を承認した。

I. 第14回編集委員会議事録の確認

II. 報告事項

1. 発行準備状況

23(5)を9月、23(6)を11月に予定どおり発行した。24(2)まで発行する準備ができています。

本年は、11月18日までに138編の投稿を受け付けたので、年間150編程度(04年は149編;03年は124編)の見込みである。

Reject論文数も増やしつつある(01年4編、02年24編、03年40編、04年62編、05年62編)。05年度分野別投稿数:外科系:31編(22.5%);内科系:58編(42%);基礎系:48編(34.8%);疫学系:1編(0.7%)

投稿数は国内からの投稿が53編(39%)、国外からの投稿85編(61%)であり、国外からの投稿数が初めて上回った。

地域別の内訳:日本:53編(39%);アジア:34編(25%);ヨーロッパ:28編(20%);北米、南米:14編(10%);中東:6編(4%);オセアニア:3編(2%)

国別内訳:日本:53編;中国:14編;米国:9編;イタリア:8編;香港:7編;トルコ:5編;タイ:4編;ブラジル:4編;台湾;韓国;インド:各3編;オーストラリア;ドイツ;アイルランド;ポーランド;スペイン;スウェーデン:各2編;カナダ;チェコ;エストニア;フィンランド;フランス;ギリシャ;ハンガリー;クウェート;ニュージーランド;ノルウェー;南アフリカ;和蘭;英国:各1編

前述からアジア地区からの情報発信を目指すという線は守られている。

2. Reviewの掲載状況

Kazutoshi Nakamura; Takehisa Yamamoto(学術賞受賞論文); Fumitaka Kugimiya(奨励賞受賞論文)をVol.24に掲載した。

学術賞および奨励賞受賞者の原稿到着が遅れがちであり、督促状を出す必要がある。今後も理事長と編集委員長の連名で各賞受賞者に執筆依頼状を送ることにする。

24(2)には、本年度学術大会(西沢良記会長)国際シンポジウム“Calcium abnormalities of hemodialysis patients”のプロシーディングズを掲載する予定である。

3. 論文投稿状況

24(3)(06年5月発行予定)には、すでに6編の論文が採択されている。

4. 研究成果公開促進費申請書を11月に提出した。

III. 協議事項

1. 2006年度より委員長が交代することに伴い、Editorial Boardを再編成する。以下の新たなAssociate Editors(案)(ABC順)が示され、出席者全員が了承した。

Editor-in-Chief: 清野佳紀(すでに予定者として理事会で決定

済み)

内科系: 細井孝之(留任)、西沢良記、松本俊夫、大園恵一

外科系: 遠藤直人、中村利孝(留任)、吉川秀樹

基礎系: 野田政樹(留任)、山口 朗、米田俊之

骨形態計測学会代表委員: 福永仁夫(留任) 以上、12名

2006年4月、鈴木現編集委員長を名誉編集委員に推戴することが理事会で決定している旨、清野次期編集委員長より発表があった。なお、川島博行、久米川正好両先生はAssociate Editorの退任を申し出られた。

論文査読を頻繁に依頼する予定者を、Editorial boardに加入してもらうため、3-4名の候補を挙げてもらうこととする。なお当初、Associate Editor候補に挙げていた中村耕三教授および手塚建一助教授は辞退されたので、Editorial Board memberに入ってもらったこととした。

2. 電子査読システムの導入

郵送料の節約および査読の迅速化を図る方法としてオンライン投稿・査読システムを採択する。

Springer Tokyo社はシステム候補としてManuscript Central(Scholar One Inc.)およびEditorial Manager(Aries Systems Corp.)を挙げている。Manuscript Centralは前々回編集委員会で米澤編集部長より説明済みであり、日本生化学会のJ Biochemは今年度からこのシステムを採択している。

編集委員会資料4ページの両者比較表によると、初期費用が安く、査読の流れ、設定条件を自由設定でき、日本語コメントを添付できるEditorial Managerの方が優れているように思えるが、実際の説明を清野次期委員長と編集事務局が米澤氏よりまず聞くこととした。

3. インパクトファクターについて

2004年度JBMM誌のimpact factorは1.493であり、日本の医学系雑誌では10位となっている。2005年度の掲載数が増えるので、より多く引用されることが必要である。

第16回JBMM編集委員会

日時: 2006年2月24日(金)14:00~15:00

場所: 千里クラブ 千里ライフサイエンスセンタービル20階

出席者: 次期編集委員長: 清野佳紀; 編集委員長: 鈴木不二男

Associate editors: 大園恵一、中村利孝、西沢良記、野田政樹、松本俊夫(理事長)、吉川秀樹、米田俊之

欠席者: Associate editors: 遠藤直人、川島博行、久米川正好、福永仁夫、細井孝之、山口 朗

陪席者: 編集事務局: 五郎大由似子

鈴木委員長が退任および退院のご挨拶をされ、今後、日本の有力な研究室から投稿してもらうよう推進することが肝要であることを強調された。

次に清野次期委員長より資料に基づき説明があり、以下の事項を承認した。

I. 報告事項

1. 昨年 12 月に鈴木委員長が突然入院され、急遽、清野次期編集委員長が代行することになり、それに伴い、新体制を前倒しで行った。3 月号には新旧合同の Associate editors リストを掲載する予定であることが報告された。

2. 発行準備状況

24(1)を 1 月に予定どおり発行した。24(2)は 3 月に発行し、24(3)まで発行する準備ができている。

昨年は、151 編の投稿を受け付けた。(04 年は 149 編; 03 年は 124 編)の見込みである。

Reject 論文数も増やしつつある(01 年 4 編、02 年 2 編、03 年 40 編、04 年 62 編、05 年 81 編)。05 年度分野別投稿数:外科系:35 編(23.2%);内科系:63 編(41.7%);基礎系:52 編(34.4%);疫学系:1 編(0.7%)

投稿数は国内からの投稿が 58 編(38.4%)、国外からの投稿 93 編(61.6%)であり、国外からの投稿数が初めて上回った。

地域別の内訳:日本:58 編(39%);アジア:36 編(25%);ヨーロッパ:29 編(20%);北米、南米:16 編(10%);中東:8 編(4%);オセアニア:3 編(2%)

国別内訳:日本:58 編;中国:14 編;米国:10 編;イタリア:8 編;香港:7 編;トルコ:7 編;ブラジル、インド:5 編;タイ:4 編;台湾、韓国、ドイツ、スペイン:各 3 編;オーストラリア;アイルランド;ポーランド;スウェーデン:各 2 編;カナダ;チェコ、エストニア、フィンランド、フランス、ギリシャ、ハンガリー、マレーシア、南アフリカ、クウェート、ニュージーランド、ノルウェー、オランダ、英国:各 1 編

海外すべての地域からまんべんなく投稿が届いている。

24(2)には、本年度学術大会(西沢良記会長)国際シンポジウム“Calcium abnormalities of hemodialysis patients”のプロシーディングズを掲載する予定である。

3. Review の掲載状況

学術賞および奨励賞受賞者の掲載状況について、一覽で確認した。原稿到着が遅れがちの受賞者については、各研究室の教授へレビュー執筆の督促を特にお願いしたいと、清野次期委員長より発言があった。また、原著論文発表との兼ね合いもあるので、レビュー投稿まで若干遅くなるのは仕方がないと、鈴木委員長が説明した。

4. 論文投稿状況

2006 年は 2 月 24 日現在、28 編の投稿がある。24(4)(06 年 7 月発行予定)は、すでに 13 編の論文が採択され、シュプリンガーへ発送済である。

II. 協議事項

1. 新体制発足に伴い、Editorial Board を再編成するため、Associate Editors へ推薦者を依頼した。その一覽を閲覽し、未返信の Associate Editors に推薦いただくよう依頼した。また、International Advisory Board も見直しを行い、若手で有力なアジア、特に中国、韓国の研究者に依頼することとした。

2. 電子査読システムの導入

編集委員会資料の両者比較表によると、初期費用が安く、査読の流れ、設定条件を自由設定でき、日本語コメントを添付できる Editorial Manager の方が優れているように思えるが、実情を確認するため、Springer Tokyo 社が候補に挙げた Editorial Manager(Aries Systems Corp.)のデモを行った。デモは大園編集理事、田中弘之先生、中島滋郎先生、編集事務局が行った。カスタマイズについては契約後にするので詳細はわからなく、Editorial Manager が Manuscript Central より後発であるが、今まで経験している電子査読システムと比べて、遜色がなく導入してもよいのではないだろうか。と大園編集理事より報告があった。レフェリーの検索が簡単に行え、査読がスムーズに行えるので、2007 年 1 月 1 日施行を目指して、迅速に電子査読化を進めることとした。また編集事務局でも新たな業務となるので、その分の支払いが発生するが、作業量の確定後見積もりを受けることとする。

3. カラーページ掲載について

形態系の有力なジャーナルがカラーページの印刷代を 1 ページ補助している。JBMM もカラーページ 1 ページ補助を行ってきたが、経費がかさむため、見直すこととした。Instruction to Authors の改正時にあわせて行うこととする。

4. 査読について

2006 年度の投稿数が増加傾向であり、本誌の質の向上を図るため、Reject 率を上げることが必要である。却下率を 50-60% にするように、JBMM に相応しくないものは Associate editor が受け取った時点で却下することを、清野次期委員長が要望された。

なお、メールまたはファックス等でレフェリーへ査読を依頼し、了解を得た後、送付することを申し合わせた。

査読方法について、新 Associate editors が把握していないところもあるので、理解できるツールを作成することにした。

< 第 24 回日本骨代謝学会プログラム委員会 >

日 時: 2005 年 7 月 21 日(木) 13:00 ~ 15:00

会 場: 大阪国際会議場 12 階 1203 会議室

出席者:

川島博行(第 24 回会長)、西沢良記(第 23 回会長)、
高岡邦夫(第 25 回会長)、大園恵一、吉川 秀樹、太田 博明、
滝川 正春、野田 政樹、福永仁夫、
吉澤達也(第 24 回事務局)

日 時: 2005 年 11 月 23 日(水) 14:00 ~ 15:00

会 場: 大阪厚生年金病院2階 第1会議室

出席者:

川島博行(第 24 回会長)、高岡邦夫(第 25 回会長)、
大園恵一、吉川 秀樹、太田 博明、滝川 正春、野田 政樹、

欠席者:

西沢良記(第 23 回会長)、福永仁夫

< あり方委員会 >

日 時: 2005 年 7 月 20 日(水) 9:30 ~ 10:30

会 場: 大阪国際会議場12階 1203会議室

出席者:

高岡 邦夫(委員長)、松本 俊夫、西沢 良記、福本 誠二、
山口 朗、野田 政樹

欠席者:

福永 仁夫、中村 利孝、水沼 英樹、田中 栄、加藤 茂明

< 国際渉外委員会 >

日 時: 2005 年 7 月 20 日(水) 10:30 ~ 11:30

会 場: 大阪国際会議場12階 主催者控室

出席者:

松本 俊夫(委員長)、大園 恵一、野田 政樹、福本 誠二、
山口 朗、米田 俊之、

< 骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会 >

日 時: 2005 年 7 月 21 日(金) 7:30 ~ 9:00

会 場: 大阪国際会議場12階 1203会議室

出席者:

中村 利孝(委員長)、太田 博明、五来 逸雄、白木 正孝、
藤縄 理、遠藤 直人、熊本 圭吾(アドバイザー)

議 事:

1. 前回の議事要旨の確認

2004 年 11 月 19 日(金)に開催された前回の委員会議事要旨が
確認され、承認された。

2. 2000 年度版の Validation データの収集状況について

前回の委員会にて決定された参加施設のデータ収集状況につい
て、下記のように報告された。

施設名	JOQOL	JOQOL SF-36	JOQOL SF-36 BMP レントゲン
国際医療福祉大学 附属熱海病院	25		20
成人病診療研究所	176	20	40
兵庫医科大学	(ご欠席)		
新潟大学			40
産業医科大学	(評価表 使用申請中)		
東京女子医科大学			18

中村委員長より、データ収集実施の際には、個人情報保護法
の施行による各施設の対応や規則にのっとり、注意して進め
るよう呼びかけがあった。

遠藤理事より、JOQOL については、既に新潟大学の IRB を通
っているため、各施設において、一度オーソライズされたもの
について審査が厳しくなることはないだろうとの説明があった。なお、
施設単位でさらに倫理委員会の承認が必要となる際には、新潟
大学の倫理委員会の申請書類を提出できるよう、事務局にて申
請書類を保管することが確認された。

中村委員長より、個々に採取したデータについては、患者が
特定されないよう注意する旨、呼びかけがあった。個人ごとの ID
番号を付ければ、氏名を管理する必要は無いことから、集めた
データを提出する際には、氏名記入欄を削除し、通し番号をつ
けて管理することが確認された。

再テストについては、各施設にて目標数 30 例とすることが確認
された。

藤原委員より、回答内容が矛盾していた場合について質問が
あり、熊本先生より下記の回答があった。

具体的・客観的な内容について

- ・回答者に再確認が可能な場合には、確認する。
 - ・再確認が不可能な場合は、他の部分との整合性から妥
当と判断される回答の方を採用する。
- 主観的な内容について(VAS 等も含む)

・回答者に再確認が可能な場合には、設問の理解に問題がないか確認する

・再確認が不可能な場合は、回答が矛盾していても、そのまま採用する

信頼性の確認された尺度について

・基本的にそのまま点数化する(明らかな無効回答の場合を除く)

JOQOLは、この場合に相当する、ということが確認された。(上記2)以下は熊本先生より後日追加のコメントがあった)

2. 今後の検討方針について

採取したデータについては、各担当施設で内容を確認し、名前を消した後に、学会事務局へ提出することとなった。締切は今年12月末とすることが確認された。

データ入力については、業者に見積もりをとり、理事会にて承認を得た後に、来年1月より作業を開始することが確認された。業者の選定については、熊本先生が担当することとなった。

業者へのデータの発送および納品は事務局にて行い、委託期間の作業のやりとりは熊本先生が担当することとなった。データが完成し、納品された後に、熊本先生、鈴木先生の方で解析を行う事が確認された。

また、熊本先生の方でかかる作業時間については、学会より日当を支払うことが確認され、時給等の詳細については、理事会にて決定することが確認された。

今後の学会予定

第25回日本骨代謝学会

会期：2007年7月19日(木)～21日(土)

会場：大阪国際会議場

会長：高岡 邦夫(大阪市立大学)

年会費の徴収方法について

一昨年度まで、一部の会員に年会費の口座自動引落をご利用いただいておりますが、事務局移転に伴い、現在は郵便振替による会費納入に切り替えさせていただいております。これまでご利用いただいていた先生方にはご迷惑をおかけすることとなり、誠に申し訳ございません。

現在、新たにクレジットカードによる会費納入を受付しておりますので、ご希望の方は下記事務局までご連絡いただきますようお願い申し上げます。

願ひ申し上げます。

日本骨代謝学会事務局

TEL:06-4806-5656 FAX:06-4806-5658

E-mail: jsbmr@conet-cap.jp

関連学会の大会開催予定

第26回日本骨形態計測学会

会期：2006年7月27日(木)午後～29日(土)

(詳細な時間は未定です。)

会場：新潟コンベンションセンター 朱鷺メッセ

(新潟市万代島6-1)

会長：遠藤 直人

(新潟大学大学院医歯学総合研究科

整形外科学分野)

演題募集期間 2006年3月20日(月)～5月10日(水) 正午

事前参加登録受付期間 2006年3月13日(月)

～6月20日(火)

一般(会員/非会員)事前登録7,000円当日登録8,000円

学生(大学院生含む)事前登録4,000円当日登録8,000円

主催事務局：〒951-8510 新潟市旭町通1-757

新潟大学医学部整形外科学教室内

第26回日本骨形態計測学会事務局

TEL 025-227-2269, 2272 FAX 025-227-0782

E-mail: endless@med.niigata-u.ac.jp

運営事務局：〒950-0078 新潟市万代島5-1 万代島ビル19F

株式会社 新宣 朱鷺メッセ営業所内

TEL 025-243-7040 FAX 025-243-7041

E-mail: jsbm06@shinsen.biz

ホームページ <http://shinsen.biz/jsbm06/>

第17回国際骨密度ワークショップ

公式ホームページ <http://www.procom-i.co.jp/ibd2006/>

1. 会議開催時期

2006年11月5日(日)～11月9日(木)

2. 会議開催場所

ウェスティン都ホテル京都

(京都市東山区三條躰上 〒605-0052)

3. 会議の性格と目的

International Bone Densitometry Workshop(IBDW)は1979年にHarry Genantの呼びかけで始められた国際的なワークショップで、これまで、欧米各所で16回にわたって開催され

てきました。世界の科学者が一堂に会して DXA、CT、超音波、MRI をはじめとした骨量の測定技術を中心とした研究成果を発表しあうワークショップですが、特に骨組織の微細構造と骨強度との関連に関して進歩に大きく貢献してきました。もともと Bone Densitometry のワークショップとして始まったものではありませんが、今や Bone Densito- Morphometry としての色彩をさらに強めていくものと期待されています。

第 17 回 IBDW は初めて欧米を離れて日本で開催されますが、最近の MRI や μ CT の進歩を反映した最新の情報が討論されるものと思われます。

4. 会議計画の概要

(1) 会議の構成

- 1) 基調講演
- 2) 招待講演
- 3) 一般演題(口頭発表、ポスター発表)
- 4) ランチョンセミナー、イブニングセミナーなど
- 5) 展示会・企業プレゼンテーション
(商用展示、書籍展示など)

(2) テーマ

From Bone Densitometry to Bone Densito-Morphometry

(3) 参加者(予定) 350 名(招待者を含む)

(4) 展示 商用展示

5. 組織構成等

第 17 回国際骨密度ワークショップ

共同会長 板橋明(埼玉医科大学中央検査部)

伊東昌子(長崎大学医学部放射線科)

福永仁夫(川崎医科大学核医学)

6. 大会事務局 (株)プロコムインターナショナル

担当者: 石田、岩下

連絡先: 〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-7

秀和紀尾井町 TBR ビル 12 階

TEL: 03-3234-9931 FAX: 03-3570-6073

e-mail: ibdwo6@procom-i.co.jp

第 9 回癌と骨病変研究会

会 期: 2006 年 9 月 8 日(金)

会 場: 淡路夢舞台国際会議場

代 表: 松本 俊夫(徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部)

参加費: 5,000 円

一般演題募集: 4月中旬頃より募集を開始いたします。

募集要項は決定次第、ホームページに掲載い

たします。

研究会 URL: <http://www.sec-information.net/jscbd>

事務局: 有限会社グラフィティ内

〒107-0052 東京都港区赤坂 2 - 20 - 2

ザ・エンドウビル1階

TEL: 03-3583-1745 FAX: 03-3583-1741

E-mail: jscbd@graffiti97.co.jp

第1回 国際骨免疫学会議 開催のお知らせ

1st International Conference on Osteoimmunology: Interactions of the Immune and Skeletal Systems

ホームページ <http://www.aegeanconferences.org/>

(このページの右下の1st International Conference on Osteoimmunology: Interactions of the Immune and Skeletal Systems をクリックしてご覧ください)

Early registration and abstract submission deadline: **March 15, 2006**

骨代謝と免疫学の境界領域として発展しつつある骨免疫学に関する国際会議の開催が決定しました。Osteoimmunology の名付け親である Yongwon Choi らが中心となり、ギリシャのクレタ島で骨と免疫の双方の専門家の学術交流の場を提供する試みを計画しています。免疫異常による骨破壊の研究に端を発した骨免疫学も、多くの免疫系分子が骨代謝制御に関わることが明らかになり、急速に展開を見せています。また、この分野の発展には日本からの研究が大きく貢献しており、世界的にも注目されています。是非日本からの積極的な参加をお願いいたします。

会期： 2006年5月28日 ・ 6月2日

場所： クレタ島、ギリシャ (Aldemar: Knossos Royal Village Hotel)

Organizing Committee

Yongwon Choi, Ph.D., University of Pennsylvania
Steven R. Goldring, M.D., Harvard Medical School
Mark Horowitz, Ph.D., Yale University School of Medicine
Joseph Lorenzo, M.D., University of Connecticut Health Center
Josef Penninger, Ph.D., Institute of Molecular Biotechnology (IMBA)
Hiroshi Takayanagi, M. D., Ph. D., Tokyo Medical and Dental University

Topics

“Transcription Factors shared in the Osteoimmune System”
“Comparison of Signals Critical for bone and immune system”
“Regulation of Hematopoiesis and its interaction with bone”
“Bone, the immunological memory, and aging”
“Cytokines regulating the crosstalk between bone and the immune system”
“Costimulation in the immune system and bone”
“Diseases in the Bone”
“Novel therapies”

国際骨免疫学会議 日本世話人会

東京大学大学院医学系研究科整形外科学
東京大学大学院医学系研究科アレルギー・リウマチ学
聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター
順天堂大学医学部免疫学
東京大学大学院医学系研究科整形外科学
東京大学大学院医学系研究科アレルギー・リウマチ学
順天堂大学医学部内科学
順天堂大学医学部免疫学
東京医科歯科大学大学院膠原病・リウマチ内科学
東京医科歯科大学大学院分子情報伝達学

中村 耕三
山本 一彦
西岡久寿樹
奥村 康
田中 栄
沢田 哲治
小林 茂人
中野 裕康
上阪 等
高柳 広

お問い合わせ先

第1回 国際骨免疫学会議 日本世話人会事務局 高柳広
東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子情報伝達学
〒113-8549 東京都文京区湯島 1-5-45
Tel: 03-5803-5471 Fax: 03-5803-0192 Email: taka.csi@tmd.ac.jp

**3rd IOF ASIA-PACIFIC REGIONAL CONFERENCE ON OSTEOPOROSIS AND
16th ANNUAL MEETING OF THE ANZ BONE & MINERAL SOCIETY**

23-26 OCTOBER 2006

Sheraton Mirage Resort, Port Douglas, Australia

DRAFT PROGRAM SUMMARY

Invited Plenary Lectures

Epidemiology and Genetics

Goodbye T and Z, hello Absolute risk on the Y-axis
Epidemiology of Fractures – Known and Unknown
Genetics – What are the Questions, how to answer them
Genetics – What are the Answers
Central Control of Bone Material and Structure

Pathogenesis Modelling and Remodelling

Why do Bones Break – the Material and Structural Basis of
Bone Strength
Pathogenesis of Bone fragility – Racial and Sex Differences
Pathogenesis and Prevention of Arthritis
Growth Related Origins of Bone Disease

Cellular Symphony of Osteoclastogenesis

Osteoblast to Osteoclast, a Two Way Ticket
Immune Mechanisms in Osteoclastogenesis
Nuclear Receptor Targets in Bone

Mesenchymal/Haemopoietic Interactions in Osteoclastogenesis
Mechanical stress-induced AP-1 and Smad signalling for
osteoblastic differentiation

Therapeutics

New Drugs, New Mechanisms (Strontium Ranelate, AMG 162,
Vit K)
Anabolic Agents – Approaches to The Holy Grail for Bone
Future of new Vitamin D analogs

Other Topics

Corticosteroids and Bone – Mechanisms, Treatment
Multiple Myeloma
Cancer and Bone - a New Frontier in Drug Discovery in
Oncology
Growth – Choosing the Right Parents
FGF 23 Phosphatonin
Signaling for Cartilage Differentiation

Oral presentations from abstract submissions (n = 72)

Poster sessions – daily, all posters mounted throughout the meeting

Industry sponsored symposia

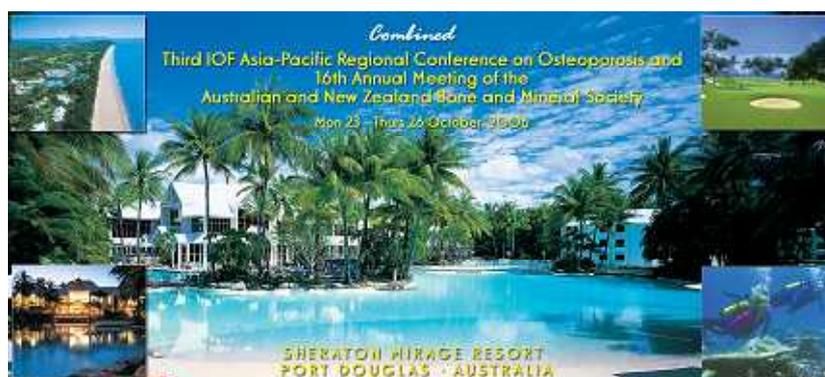
Five x 2 hour slots (Mon 6.30 pm, Tues 12 noon and 6.30 pm, Wed noon, Thurs noon)

Expert Panel Workshops

- (A) Inter and intracellular signalling - Monday
- (B) Bone Quality – what is it, can it be measured and applied clinically? - Wednesday
- (C) Treatment – why, who, when, what drug, how long? - Thursday

Weekend prior meeting

Densitometry training course for Technicians and Physicians
IOF Meeting
Osteoporosis Australia Physicians Update Clinical Update day
Paediatric Day



Journal of Bone and Mineral Metabolism 編集委員長交代

および 編集委員会再編成のお知らせ

鈴木不二男編集委員長が勇退され、平成 18 年度より、清野佳紀 Associate editor が日本骨代謝学会誌編集委員長に就任しました。それに伴い、編集委員会を順次再編しており、Associate editors については下記の方が着任します。なお詳細は第 15 回 JBMM 編集委員会議事録（今号ニュースレターの記事）をご一読下さい。

Editor-in-Chief: 清野佳紀

内科系：細井孝之（留任）、西沢良記、松本俊夫、大園恵一

外科系：遠藤直人、中村利孝（留任）、吉川秀樹

基礎系：野田政樹（留任）、山口 朗、米田俊之

骨形態計測学会代表委員：福永仁夫（留任）

以上、12 名

メールアドレスご登録のお願い

本会では、会員様へのご連絡などをより円滑に行うため、メールアドレスのご登録を呼びかけいたしております。メールアドレスを事務局宛て、下記の要項にて、FAX またはメールにてお知らせください。

ご登録いただいた方へは、ニュースレターや、その他国際骨代謝学会の情報など、メールにていち早くご提供させていただきます。ご協力のほど、何卒よろしくお願いいたします。

メールアドレスご登録 FAX 送信先：06 - 4806 - 5658

ご芳名：

ご登録メールアドレス：

* 上記の内容を、FAX または E-mail (jsbmr@conet-cap.jp) にてお寄せください。